

第2回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

日時：令和元年10月23日（水） 10：00－12：00

場所：国土交通省京都国道事務所5F会議室

議事要旨

1. これまでの動きについて

- ・京都エリア観光渋滞対策実験について、これまでの経緯が確認された。
- ・新たなICT・AI技術「予測技術」と「対策技術」の評価状況について、協議会にも情報提供すべきとの意見があった。

2. ICT・AIの活用について

- ・京都市における社会実験について、AIカメラ・可搬型ETC2.0の機器設置における考え方や設置箇所、新たなICT・AI技術として導入したWi-Fiパケットセンサーの概要や設置箇所等が確認された。

3. 調査・分析結果

- ・AIカメラ、Wi-Fiパケットセンサー、現地調査の分析結果から、以下について確認された。
 - ・観光ピーク期に観光交通が増加し、混雑の要因となっている。
 - ・五条坂の観光バス離合困難箇所が、混雑の要因となっている。
 - ・公共交通手段のなかで、路線バスに利用が集中している。
 - ・歩行者のはみ出しと速度低下とに相関が見られ、交通安全上も問題がある。
 - ・嵐山・東山間の移動において、京都駅を経由する観光客が存在する。
- ・コスト面を含め、今後のモニタリングのあり方を検討すべきとの意見があった。
- ・ナンバープレート情報を活用し、更に時間帯別の流入交通と出発地を分析すべきとの意見があった。
- ・バスから電車へ転換を促すために、料金と所要時間等から、電車の優位性を把握すべきとの意見があった。

4. 今後の取り組みについて

- ・東山エリアの課題に対して、さらなるデータ取得および分析を行いつつ、既存技術やICT技術を活用した対策を検討していくことが確認された。
- ・京都市の目指している「歩くまち・京都」の施策と連携しながら進めていくべきとの意見があった。

以上